

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2009年2月)

発表日2009年4月24日(金)

～5ヶ月連続で悪化、前年比は▲12.5%と2桁マイナスに～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 小杉 晃子
TEL : 03-5221-4548

(単位: %)

		全産業活動指数											
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
07	7-9月	0.1	1.0	0.1	1.5	1.6	2.9	0.1	▲0.7	▲5.9	▲6.8		
	10-12月	▲0.1	0.7	▲0.1	0.9	1.8	4.2	▲0.1	▲0.6	▲4.8	▲11.0		
08	1-3月	▲0.9	0.4	▲1.1	0.6	▲2.2	2.3	▲0.7	0.0	0.0	▲9.6		
	4-6月	0.5	▲0.5	0.9	▲0.2	▲0.1	0.9	0.2	▲0.4	▲1.7	▲11.9		
	7-9月	▲0.8	▲1.2	▲0.6	▲0.8	▲1.4	▲1.3	▲0.3	▲0.8	▲1.8	▲7.9		
	10-12月	▲3.4	▲4.9	▲1.7	▲2.7	▲11.2	▲14.7	0.8	▲0.2	2.9	▲0.7		
07	7月	▲0.3	1.7	▲0.3	1.7	▲0.1	4.2	0.0	▲0.5	▲1.9	▲3.2		
	8月	0.6	1.7	0.6	2.1	1.7	4.4	▲0.1	▲0.8	▲3.8	▲6.9		
	9月	▲0.9	▲0.3	▲0.7	0.5	▲1.3	0.4	0.3	▲0.9	▲3.8	▲10.2		
	10月	0.6	1.3	0.3	1.3	2.6	5.9	▲0.3	▲0.7	▲1.8	▲11.5		
	11月	▲0.2	1.2	0.1	1.7	▲1.2	4.1	0.0	▲0.4	1.3	▲10.8		
	12月	▲0.2	▲0.3	▲0.5	▲0.1	1.0	2.7	0.0	▲0.6	0.1	▲10.7		
08	1月	0.0	0.6	0.4	1.0	▲1.9	2.9	▲0.4	▲0.7	0.4	▲10.1		
	2月	▲1.3	1.8	▲1.6	1.7	▲0.3	5.1	▲1.3	1.4	▲2.6	▲9.6		
	3月	0.3	▲1.0	0.0	▲0.5	▲1.4	▲0.7	1.7	▲0.6	2.5	▲9.2		
	4月	0.8	0.3	1.9	0.7	▲0.4	1.8	▲0.3	▲0.3	▲1.0	▲10.6		
	5月	0.4	▲0.5	▲0.2	▲0.2	2.6	1.2	▲0.1	▲0.3	▲1.8	▲12.2		
	6月	▲1.0	▲1.3	▲1.0	▲1.0	▲1.3	0.0	▲0.3	▲0.7	▲1.1	▲12.9		
	7月	0.8	0.3	1.2	0.7	1.1	2.4	▲0.4	▲1.0	▲1.7	▲12.6		
	8月	▲1.7	▲3.3	▲1.3	▲2.2	▲4.1	▲6.9	▲0.1	▲1.4	2.0	▲7.8		
	9月	0.0	▲0.6	▲0.7	▲0.9	1.3	0.2	0.9	▲0.1	0.0	▲3.4		
	10月	▲0.4	▲2.4	0.5	▲1.4	▲2.5	▲7.1	0.3	0.1	1.1	▲0.8		
	11月	▲2.4	▲6.0	▲1.1	▲3.7	▲8.2	▲16.6	0.1	▲0.5	1.3	▲1.0		
	12月	▲2.6	▲6.0	▲1.6	▲2.9	▲9.5	▲20.7	0.3	0.8	0.7	0.1		
09	1月	▲1.7	▲8.9	0.4	▲3.9	▲11.3	▲30.9	0.5	1.2	▲0.6	▲1.3		
	2月	▲2.0	▲12.5	▲0.8	▲6.1	▲8.8	▲38.5	0.0	▲1.0	1.0	▲1.3		

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

○ 全産業活動指数：前月比▲2.0%

2月の全産業活動指数は前月比▲2.0%と5ヶ月連続でマイナスとなり、ほぼコンセンサス(同▲2.1%、レンジ: ▲2.5%～▲1.7%)通りの結果となった。これで1-2月期平均水準は前期比▲5.2%と、10-12月期平均(同▲3.4%)を大きく下回った。全産業活動指数の悪化が加速していることが改めて確認された。

内訳をみると、プラスに寄与した指数は建設業活動指数(前月比寄与度: +0.05%ポイント)のみであり、公務等活動指数は横ばい、第3次活動指数(前月比寄与度: ▲0.50%ポイント)鉱工業生産指数(同: ▲1.42%ポイント)はマイナスに寄与した。

○ 鉱工業生産、第3次産業活動指数の減少は続く

個別にみると、鉱工業生産指数の落ち込みが目立つ。海外経済の悪化を背景に、輸出が急速に減少していることや、在庫調整の影響などにより、生産の大幅な減少が続いている。

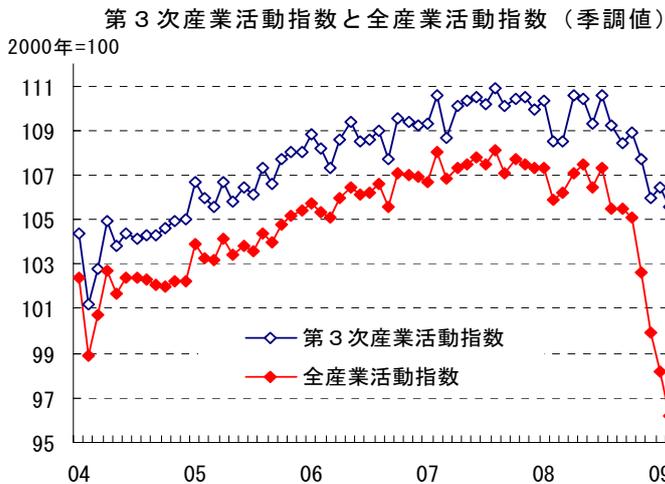
第3次産業活動指数においても、企業収益の悪化に伴う中間投入需要の減少や貿易・物流量の縮小により、卸売業、運輸業などの企業部門の悪化が続いていることに加え、所得環境の悪化を受けて、家計部門の活動も弱んでいる。製造業のみならず、非製造業の活動も低下傾向が継続している。

○ 先行き悪化ペースは鈍化する見込み

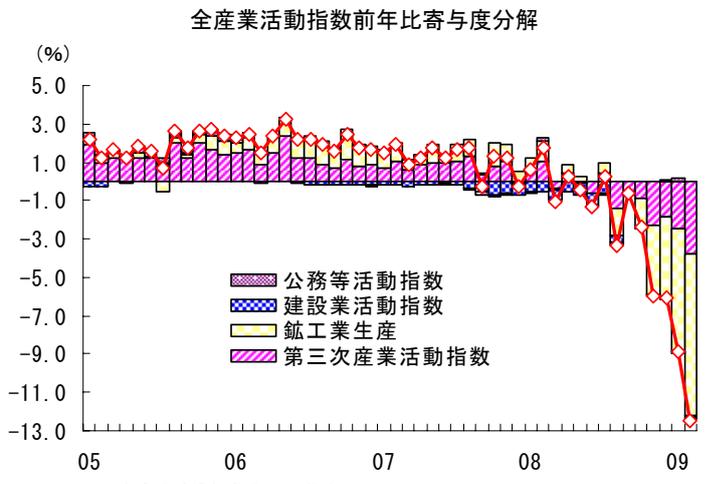
全産業活動指数の先行きを展望すると、まず第3次産業活動指数については、企業部門において、貿易量の減少から、卸売業や運輸業の不調は続くと思込まれることに加え、収益の大幅悪化が企業の設備投資を抑制し、企業関連サービス業などの活動も停滞することが予想される。また、海外経済の悪化に伴う企業の収益悪化や生産調整などの影響が、雇用、所得環境に波及することで、家計部門の活動も抑制されよう。

一方で、鉱工業生産指数に関しては、今後減産ペースが緩和していく可能性が高い。3月の貿易統計でも、輸出の急速な減少に歯止めがかかりつつあることが確認できたほか、国内においても、在庫調整が進展している。生産予測指数において、3、4月は上昇が予想されていることなどもあり、今後生産は下げ止まりを窺う展開が予想される。

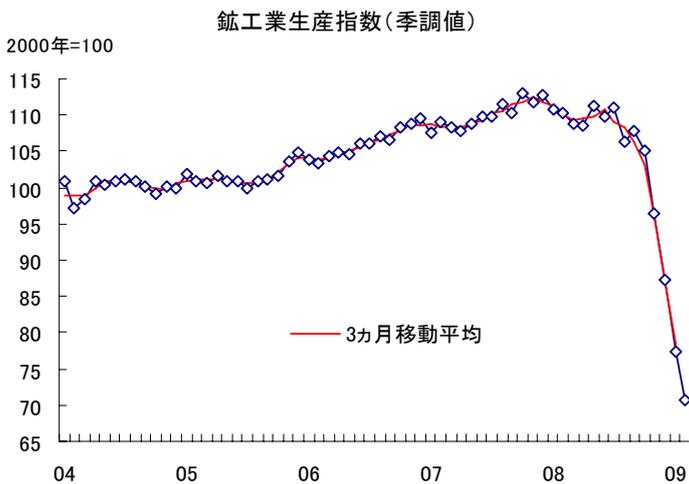
このように、第3次産業活動指数の悪化が続く一方で、生産が下げ止まることが見込まれることから、全産業活動指数の悪化ペースは鈍化していくであろう。



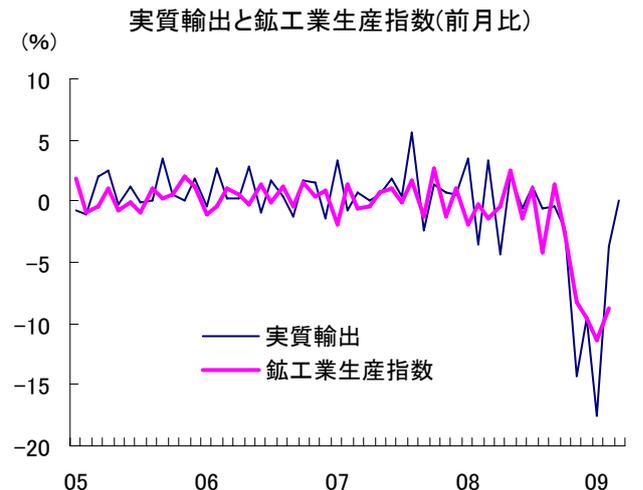
(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」「全産業活動指数」



(出所) 経済産業省「全産業活動指数」



(出所) 経済産業省「全産業活動指数」



(出所) 経済産業省「全産業活動指数」、日本銀行「実質輸出入」